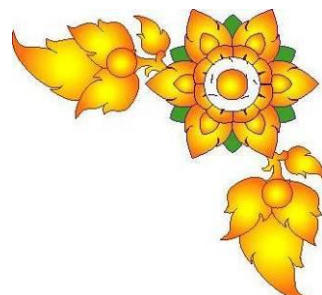


ほほえみ 第86号

発行日 2010年12月15日

ドゥアン・プラティーブ財団



2011年、新年おめでとうございます。

本年もどうぞよろしく願いいたします。

ご支援者の皆さまには、新たな年をむかえられ、お元気にお過ごしのこととお察しいたします。皆さまのご協力を得まして、プラティーブ財団の活動は33年目に入ります。

2010年、タイは経済不況に陥り、失業者が増え、国民の生活も困窮しつつある中、政府は非常事態宣言を発令。政情不安な状態となりました。さらに局地的な豪雨と山林からの増水により各県が洪水となり、田畑や家屋が浸水し、人々の生活に大きな打撃を与えることになりました。

しかし、様々な社会問題に直面しながらも、当財団では子どもや青年たちの願いが実現できるよう、これまで活動に取り組んでまいりました。高校卒業まで当財団の奨学生であったシリラックさんは、6年間の国費留学生としてオランダで学び、2010年秋に無事大学を卒業し、関係者一同から祝福を受けました。すでに2010年3月には3人が同校を卒業していますが、その中の一人で、バンコクの大学に進学したジェンジラーさんが2011年2月に佼成看護専門学校を受験する予定です。この他、津波孤児のナムティップさんがアメリカの支援団体「Flame of Hope Foundation」の協力により高校生として1年間ウィスコンシン州で勉学に励んでいます。

また、当財団青年部の活動として、王室のウボンラット王女が奨励する優良な青年を表彰して3年になります。他にも、教育奨学金支給（年間2500人）や、スラム地区11カ所の保育園運営支援、エイズ予防対策、「生き直しの学校」プロジェクト、おはなしキャラバン事業なども実施中です。

さらに、2011年の事業としてサン理事長が去る11月に在タイ・スイス大使と会見し、調印式を行いました。今後は、スウェーデンとスイスの団体などからも支援をいただき、子どもの未来のための活動を推進していきたいと願っております。ご支援者の皆さまの益々のご健康とご多幸を心よりお祈り申し上げます。

ドゥアン・プラティーブ財団創設者

プラティーブ・ウンソントム秦

豊中ロータリークラブほか 貧困地域の学校に図書寄贈



大阪府の豊中ロータリークラブは10年以上、タイ国内のロータリークラブと協賛し、国際ロータリー財団が基金援助を行い、プラティープ財団が調整するマッチング・グラント事業を展開しています。

これまでの支援には、学校への浄水器贈呈（20台）、グリーン・ハウス（無農薬野菜）建設（10校）、コンピュータ機器贈呈、図書室設置支援、70ライ地区での健康センター建設があります。さらに、毎年中古自転車100台を寄贈いただいております。スラム地区や遠隔地の学童の通学にたいへん役立っています。

今年度は、プラナコン・ロータリークラブと協賛して、子どもたちが豊かな想像力を育むことができるように、辞書や参考書など約43万3950冊相当の各種図書を購入。スラム地区の幼稚園、「生き直しの学校」チュンポン校、カンチャナブリ校、津波復興プロジェクト、シンブリー県ワットポート校、チャチェンサオ県バーンパコンボーウォンウィタヤヨン校に寄贈しました。

式典には、豊中ロータリークラブから11人が来タイされ、11月3日から6日まで各地で行われました。その際、シンブリー県では洪水被災者に対して救援物資も配給していただきました。

今回贈呈された6000冊余りの図書は、貧困地区の子どもたちの学力増進のために活用されることとなります。

シンガポール支援者グループ プラティープ財団を訪問

シンガポールの実業家 Ms. Leona Wong が中心となり、17年前に支援者グループ、『The Sincere Group』を立ち上げて以来、同グループにはプラティープ財団の活動を支援していただいております。

35人の奨学生に対する教育支援のほか、スラム地区の各幼稚園、「生き直しの学校」カンチャナブリ校、津波復興プロジェクトに対して教材を寄贈していただいております。さらに、ペップリー県過疎地にある学校の図書室にも書籍贈呈していただきました。

11月8日、『The Sincere Group』の一行25名が当財団を来訪され、ミンポン副理事長をはじめ幼稚園児とともに楽しい交流活動を行いました。支援者グループの皆様のご親切に心より感謝いたします。



ウボンラット王女 スラム地区の模範的青年を表彰



タイ王室ウボンラット王女の奨励によりスラム地区の模範的青年が表彰されることになって、今年で第3回目を迎えました。第3回目の式典は、10月30日、「Thomas B. Wells Chritable Fund」代表の Thomas 氏を主賓に、行政関係者、地域住民、青年グループのメンバーなど500人余りが出席して行われました。

この賞は、教育開発活動、道徳活動、社会奉仕の3分野で模範的な活動をしている青少年が受賞対象となります。当日は、地域の中でどんな境遇にも屈することなく、自ら着実な目標を持って地域社会に貢献している若者9人が模範的な青年として表彰されました。

ここで今年受賞した2人の青年を紹介いたします。

●**スパポーン・トムイムさん（通称＝パイさん、18歳）**は母親と一緒にロック1-2-3地区で暮らし、タイ国軍看護大学看護学科の1年生として学んでいます。彼女は成績優秀で、礼儀正しく、様々な課外活動に参加しています。スポーツ、絵画、音楽が得意で、タイ伝統楽器（ソーウー、笛、キム）を演奏することができます。大学での活動以外にも、彼女は教育里親事業部が行っている隔週土曜日の活動や環境保護キャンプ、青年リーダー育成キャンプなどにも積極的に参加しています。



●**ワリン・アートウィライさん（通称＝トンさん、19歳）**はマヒドン大学音楽楽器部で学んでいます。現在、ノンマイ地区で家族とともに暮らしています。彼は勉学や様々な活動に取り組み、特にバイオリンが得意で、各地で演奏活動などを行っています。また、大学ではスポーツ選手として活躍しているほか、地域内でも仏教キャンプや麻薬撲滅運動など社会奉仕活動に積極的に参加しています。卒業後は、自分の技能を活かして音楽指導をするのが夢。一人でも多くの青年が自分の夢に向かって忍耐強く挑んでほしいと願っています。

他にも優れた若者たちが苦境と闘いながら、自分たちの目標にむかって精一杯努力をしています。当財団では、彼らのような模範的な青年たちを今後も表彰し、激励していきたいと願っています。

津波孤児、オーストラリアで親善交流

11月22日から12月5日まで、Hands Across the Water 団体の Peter 代表と Narta International Pty. Ltd. 社長の Kay 女史が協力して、パンガー県の津波孤児たちの代表10人をオーストラリアに招待してくださいました。

当財団創設者の プラティープ先生と津波復興プロジェクトのロジアナ部長も同行しました。両団体は、津波復興プロジェクトを共同実施して6年になり、代表の孤児たちはシドニー市やブリスベン市を訪問して、現地の支援者グループとの文化交流を深めて来ました。

当財団の津波復興プロジェクトは、2004年12月26日に南タイ6県を襲った大津波により被害を受けた人々を対象にスタート。当初は被災者たちの精神的ケアや職業訓練などを実施しながら、津波で家族を亡くした孤児たちがセンターで生活できるようにしました。その後、年齢に応じて就学している65人の孤児たちが共同生活をおくっている『バーンターンナムチャイ』センターや、他の建物も両団体からの支援金で建設されました。

今回オーストラリアを訪問できた孤児たちは、オーストラリアの文化に触れ、またタイ国の文化を紹介するなどの貴重な体験とともに世界の出来事に視野を広めていくこととなりました。今回の滞在で孤児たちを受け入れてくださいました団体の皆様、本当にありがとうございました。



貧困家庭の少女、オランダの大学を見事卒業

シリラック・チャオチャーンさん（ニックネーム＝クワーン）は貧困家庭に生まれ、7歳の時に両親が離婚してしまいました。その後、母親が一人で洗濯物やアイロンかけをして生計を立てていましたが、学費を捻出することは到底無理でした。そのため、当財団では小学2年から高校卒業まで教育奨学金を支給してきました。

そして、高校卒業時、彼女はタイ政府の教育奨学金試験を受験し、見事合格。この教育奨学金は、タクシン元首相が発案したもので、宝くじの売上金を財源として、教育省の管理事業として2003年にスタートしました。対象者は貧困家庭でありながら成績優秀な高校卒業生。全国から926人が選抜されました。

シリラックさんはそのなかの一人として教育奨学金を受け、オランダのMaastricht大学科学部に留学することになりました。留学先としてオランダを選んだのは、他のヨーロッパ諸国と違って人口も少なく落ち着いた国であり、適応し易いと思ったからです。

スラム出身の彼女ですが、6年間努力してきた成果が実り、この秋、卒業することができました。最初の2年間はオランダ語のマスターに専念。その後の大学での講義は非常に充実しており、教授が出す課題は分析力が要求されるものでした。また、常に友人たちと意見交換をしながら勉強を進め、『Problem based learning』というシステムによるトレーニングを受けてきたので、彼女はタイでもこのテクニックを応用していくことを希望しています。

彼女は、無事に卒業できたのもプラティープ財団から教育奨学金を受けてきたお陰であると感謝しています。そして、進学希望者に対しては、「私は頭脳明晰でも、勉強ができる方でもないの、とにかく他の学生に負けないように熱心に復習しました。試験直前にだけ勉強するのではなく、日々の努力が必要です。また、私の家庭は貧しかったので、どうしても頑張らなければいけないという気持ちが支えとなったのです。保健省が在タイ国オランダ大使館に就職したいと思っています」と激励しています。

しかし、非常に残念なことですが、この留学奨学金制度は、政権交代によって中止になってしまいました。当財団ではこれからも子どもたちの将来のために全力を尽くしていく所存です。



教育里親事業部、家族連合運動会を開催

10月31日、教育里親事業部ではパタナー共同体小・中学校の校庭で「家族連合運動会」を開催しました。

ミンポーン副理事長は開会の挨拶で「保護者はいつも生活していくために働きに出ており、ほとんど子どもたちと一緒に過ごす時間がないため、こうした機会を通してお互いにスポーツをして汗を流し合うことが大切です」と述べました。

今回の運動会は、家族が互いに助け合いながら様々な競技に挑戦していくことと、スポーツを通して心身共に鍛えることが目的で、地域の活動（「温かな家庭」を推進する事業）を積極的に行っている子どもたちと保護者たち300人余りが参加。9種の競技やゲームなどを楽しみました。

グラントは応援する人たちの笑い声で賑わい、参加者は勝敗に関係なくそれぞれの競技に全力を尽くしていました。



プラティープ先生、天台宗宗務庁を表敬訪問

去る11月19日、ドゥアン・プラティープ財団創設者のプラティープ先生と近畿大学の秦教授は、天台宗宗務庁を表敬訪問し、阿純孝宗務総長と福恵善高一隅を照らす運動総本部長をはじめ、役員の先生方とお会いしました。

天台宗一隅を照らす運動総本部様には、これまで25年余りの長きにわたって当財団の活動にご支援いただいております。恒例となっている支援事業としては、麻薬の更生施設の「生き直しの学校」チュンポン校、虐待された少女たちや低年齢児の養護施設の「生き直しの学校」カンチャナブリ校をはじめ、スラム地区の子どもたちに対する教育奨学金支給などがあります。さらに一隅を照らす総本部主催によるスタディツアーにおいては、多くの青年たちがボランティア活動としてタイ国の他にラオスやカンボジアにも学校建設事業や植林活動を実施されてきています。



スイス大使館が支援、財団理事長が調印式に出席

11月17日、当財団のサン理事長と財団職員は、在タイ国スイス大使館の Mrs. Christine Schraner Burgener 大使を訪問し、大使館において行われた支援金の調印式に出席しました。当財団の職業促進事業に対する今回の支援は、「生き直しの学校」チュンポン校の青年たちの技術を活かしたモンテッソーリ教育教材の作製に役立てられます。

「生き直しの学校」チュンポン校は、家庭崩壊、虐待、麻薬問題などに陥った青年たちが更生する施設として財団が開設しました。青年たちは豊かな自然の中で暮らしながら、将来的に自立をするために一般教養のほか、農業など様々な分野の職業訓練を受けています。

スイス大使館の支援による職業促進事業で製作されたモンテッソーリ教育の教材は、スラム各地区の幼稚園児たちの教育指導で使用されることになります。

奨学生と保護者、生活体験学習で田植え

急速な経済成長に伴う社会変化により、これまで培われてきた人々の古き良き伝統や暮らしが失われることがあります。

生活のために両親は共働きを余儀なくされ、我が子と過ごす十分な時間までもなくなっていくます。こうして家庭が崩壊していき、子どもたちが非行に走ったり、数々の問題を抱えたりすることになります。

教育里親事業部では、スラム地区の青少年が抱える問題を解決していくための活動を通じて、人材育成を行っています。その一環として、11月13日、教育里親事業部では、奨学生とその保護者150人を対象にチャチュンサオ県ドンチュムパリー郡ラムチャラー村にて『生活体験学習』として田植え活動を実施しました。チャチュンサオ県県会議員のピチャイ氏を講師にむかえて、子どもたちと保護者が互いに汗を流し、稲を水田に植え込んでいきました。講師から説明を受けながらデモンストレーション用の水田で、実際の田植えを体験して、農作業の厳しさを理解することができたようです。

実体験後、子どもたちと保護者は10のグループに分かれ、「家族の夢を育むこと」について出された意見を絵に表現していきました。

ドゥアン・プラティープ財団
The Duang Prateep Foundation
Lock6, Art-Narong Road, Klong Toey
Bangkok 10110 Thailand
Tel : 001-66-(0)-2249-3553,(0)-2249-4880
Fax : 001-66-(0)-2249-5254
E-mail : dpffound@ksc.th.com

ホームページ：<http://jp.dpf.or.th>

銀行口座：三井住友銀行バンコク支店

口座名：The Duang Prateep Foundation

口座番号：2041159421

* 送金の際はご住所、お名前、ご送金の目的等を当財団国際部までご連絡賜りますようお願い申し上げます。

To:

奨学生の紹介

ジャトウラポーン・ターウォーンバンディットさん



ニックネームはベーンといいます。現在地域内のパトゥムコンカー高等学校1年生として学んでいます。クロントイの第1-2-3地区に両親、妹と一緒に暮らしています。父親はバイクタクシーの運転手をして働き、一日平均200バーツの収入。母親は失業したので、日雇いで出来る労働に従事しています。

彼は小学1年生の時に当財団から奨学金の支援を受けてきています。彼は勉強熱心で、学校の成績は「3.80」という得点。学業ばかりではなく、バスケットボールなどスポーツにも優れていて、学校の様々な活動に参加したり、両親の手伝いも積極的にしています。将来は立派な教師になりたいそうです。

岡山学芸館高等学校 創立50周年記念スタディツアー

岡山学芸館高等学校が創立されて今年4月で50周年を迎えました。現校長の森靖喜先生が20年以上前に当財団を訪問されたのをきっかけとして、社会福祉活動に関心のある生徒さんたちを対象に毎年のようにタイ国の研修旅行が実施されるようになりました。

その後、1998年から高校生の方々の寄付金で教育里親事業部の教育奨学金支援活動がスタート。この12年間で94人を支援していただきました。

現在、毎年、40人前後の生徒さんたちが当財団を訪問し、幼稚園の子どもたちと交流を行ったり、「生き直しの学校」カンチャナブリ校の農園作業を体験したり、子どもたちと文化交流を実施したりしています。

今年は12月14日から16日まで、小松原副校長先生をはじめ教職員、生徒の方々の総勢 4
3人が当財団と「生き直しの学校」カンチャナブリ校を訪問。その際に岡山学芸館高等学校創立 5
0周年記念に寄せて、ミンポーン副理事長から記念の盾を贈呈しました。

